

町内の住民と昔ながらの稲刈りとはさ掛け



足踏み脱穀機を使った体験



耕作放棄地で収穫した米と大豆(ミズクグリ) を使った味噌作り



まとめ（景観形成と調査結果）

- 30年前、この地域の景観として見られた石積み棚田の農地は雑草が生い茂り、見る影も無く荒廃した状況であった。山を水源として豊富に得られた良質の水は過去には飲料水として使用され、その小川には多くの水生生物が人や田と共存していた。一次産業が主であった昭和40年頃のあたり前であったこのような現状を踏まえ、北山田が価値のある場所で、再生可能な状況であるかを確かめるため、平成29年に、北山田上部の中央を流れている小川とその周辺や町内全域の調査を水生生物の専門家に依頼した。
- 北山田地域は植林による樹木の生育が順調に進み、水量は豊富で、少し水流が緩やかなところでは希少種に挙げられている生物が確認できた。他にも沢蟹やドジョウなども簡単に捕獲できた。また、ほ場整備区域でもメダカやヤゴ、ドジョウ、どんこといったたくさんの水生生物も見られ、生息に適していることも確認できた。
- 平成26年に県営事業生物多様性パイロット事業で生き物に配慮した水路の整備とビオトープ池を造成して頂き、生き物調査を継続中。

まとめ（価値ある資産のこれから）

- あくまでも農業ができる環境を整え、生物の繁殖に適した場所（ビオトープ）を提供することで、そこにいる生物と共存することを目的として、この地域を活動の拠点とし、町内をフィールドとして活動することとした。
- 調査は水生生物の専門家に依頼したが、同様のことは昆虫や陸生生物にも当てはまることが考えられる。棚田として残っている北山田は、景観や生産性以外では今も30年前の姿をとどめている島町の宝物として位置づけ、継続して生き物観察を実施し、保存していきたい。
- 「多面的機能支払交付金」の主旨を理解し、失いかけている豊かな自然環境を維持していくことは、ここに住まう私たちの使命であり、責任であると思う。この事業で描くビジョンを達成するため、住民が同じ思いを持って取り組むことで、他にない新しいコミュニティの形が出来上がることを期待している。

• ご清聴ありがとうございました。



復活した伝統の松明

毎年4月第3土、日に開催される春季例大祭の宵宮で奉納される松明。

特徴は、芯が空洞になっており、煙突と同じ構造となっていること。

松明を少し倒して空洞部に火を入れ、建て直し、一番上から炎が出れば成功。

地元ではこの松明を
「ほんがら松明」
と呼んでいます。